

講座名（専門科目名）	病態制御基礎医学 (医薬基盤・健康・栄養研究所)	教授氏名	野村 大成 招へい教授
学生への指導方針	遺伝素因と環境による生活習慣病の発生機序研究と安全性研究を日本発世界初の in vivo 研究技術を用い実施することの重要性を教える。		
学生に対する要望	夢を追うための忍耐と健全な身体		
問 合 せ 先	(Tel) 072-641-9845 大阪府茨木市彩都あさぎ 7-6-8	担 当 者	
その他出願にあたっての注意事項等			

(以下教室紹介)

研 究 内 容		
<p>人類の約 70%は何らかの慢性多因子疾患(生活習慣病)あるいは先天異常を有し、これら疾患は遺伝的素因に加え、主として生活環境因子により発症するとされている。したがって、これら疾患の病態解析は、疾患の診断、治療、予防に極めて重要であり、ヒト組織、疾患モデル動物を用いた解析、評価系の開発および研究は、医薬品等の有効性・安全性評価にも不可欠である。野村は、30年以上にわたり、放射線、医薬品・食品添加物や環境有害物質の個体発生への影響、生殖細胞を介した次世代への影響について病態解析と遺伝解析を行っている。また、その過程で多くの疾患自然発症マウス(変形性骨関節症、アカラシア、情動行動異常等)、マウス固体での高感度多種障害(突然変異、がん、奇形、等)検出系、ヒト臓器組織長期維持重度複合免疫不全マウス(Super-SCID)を作成した。これら研究システムを用い、ヒト疾患の病態解析と遺伝解析、創薬・安全性研究、遺伝子治療・免疫療法、ヒトがん発生・転移治療研究を行う。</p>		
著 者	研 究 業 績	掲載雑誌・巻・号・頁等
野村大成	がんの予防シリーズ④ [人の放射線発がんの予防]	安田記念医学財団、大阪、20 頁、2013.
Taisei Nomura	Biological Consequence and Health Concern from Low Dose and Low Dose Rate Radiations in Mice and Humans.	Health Physics., 100: 266-268, 2011.
Shigeki Adachi, Haruko Ryo, Tadashi Hongyo, Hiroo Nakajima, Rie Tsuboi-Kikuya, Yoriko Tokita, Fumio Matsuzuka, Keizo Hiramatsu, Kazuo Fujikawa, Tetsuo Itoh, Taisei Nomura	Effects of Fission Neutrons on Human Thyroid Tissues Maintained in SCID Mice.	Mutat Res., 696,107-113 2010.
Taisei Nomura, Tadashi Hongyo, Hiroo Nakajima, Li Ya Li, Mukh Syaifudin, Shigeki Adachi, Haruko Ryo, Rajamanickam Baskar, Kazuyasu Fukuda, Yoshihiro Oka, Haruo Sugiyama, and Fumio Matsuzuka	Differential radiation sensitivity to morphological, functional and molecular changes of human thyroid tissues and bone marrow cells maintained in SCID mice.	Mutat Res. 657(1): 68-76, 2008.
Taisei Nomura	Trangenerational effects from exposure to environmental toxic substance.	Mutat.Res. Rev., 659: 185-193, 2008.